

# ととす ます

特集：認知症

P2 対談

吉田正巳×清水美代子

「認知症になっても安心して暮らせる地域づくり」

P4 施設のご紹介

グループホーム「いなの家」

P5 行政の取り組み

「神戸市認知症初期集中支援チーム」

P6 認知症チェックリスト

P7 認知症の人への接し方／相談窓口の紹介

P8 協会からのお知らせ



二〇二五年には、

高齢者の約五人に一人が発症すると予測される「認知症」

若年性認知症の奥様と共に家族会を立ち上げた吉田さん、

長年保健師として取り組みとこれからの思いなどについて

語っていただきました。

「認知症」は何？

清水

吉田さんの奥様は、若年性認知症※1ということですね。

吉田 そうです。六十三歳の時でした。いたって健康だったんですが、料理をする時、「におい」を感じなくなり、診察を受けました。鼻の治療のみに終わってしまいました。今から思えば、これも初期症状ではなかったのかと思います。告知された以後は、母親やおばあちゃんとして、妻とし

絶望

清水 最近では早期発見ということが言われて、発見は比較的早い方も多いようですが、発見されたときにうまく支援につなげられないと逆に「早期絶望」ということにもつながる可能性があるというのを私たち専門職も肝に銘じておくべきだと思います。特に未だ介護保険の対象にならない段階での支援が抜けているように思います。困られたことも多かったでしょうね。

吉田 根本的な治療薬はないという事で進行を遅らせる薬を処方してもらいました。治療以外にどうすれば楽しく張りのある生活が送れるのか認知症を受け入れ、どのように病気と向き合えば良いのか、全く分かりませんでした。早期の段階でアドバイスがあれば、早期発見、早期絶望にならないかっただけではないと思います。イギリスの

て、精一杯やらなければという気持ちと、これから先への不安、自分がどうなっていくのかへの恐怖、進行を止められないのか等の葛藤の毎日でした。若年性認知症の人と家族は、実の親、義理の親との関わり、子供の教育費、会社を早期に退職せざるを得ない状況等、経済的、精神的にも高齢者の方と違って、直面する問題や負担が大きいと思います。

## 清水美代子

ひょうご若年性認知症生活相談センター相談員  
若年性認知症の人と家族の集い「子いるかの会」サポーター



「リンクワーカー制度※2」を是非、取り入れて欲しいと思います。

心の壁

清水 どんなことに困られましたか。

吉田 一番悩んだことは、妻が認知症であることを受け入れることが出来なかった事です。世間体を気にして、他人に知られたくなかった。このことが大きな壁になっていったと思います。今は誤りであったと思っています。医師から散歩を勧められ、人目を避けながら続けていました。友達に会って、「由紀子ちゃん、あんた私のこと誰か分かる?」「あんた〇〇ちゃんやろ」「なんや、由紀子ちゃん、よう分かっているやん」との会話を耳にしました。人を見下げるのもいい加減にして欲しい。医師は外へ出て交流することが認知のリハビリになると言われるが、外へ出て行く雰囲気ではないと思いました。

家族会の立ち上げ

清水 そういう中で家族会を立ち上げられたんですね。

吉田 認知症について全く無知であったし、認知症の症状にどの様に接したら良いのかも分からなかった。先程言った様に、認知症を受け入れられない上に、認知症の進行への不安、恐怖、そして、何とか進行を止められないか等の葛藤の中で、家族会は生まれたと思います。本人や家族の痛みを一番分かっているのは自分達だから、自分達で運営することにしています。もちろん、専門職のことに支えてもらってあります。この3月で、ちょうど7年が過ぎました。

本人が主役

清水 実際どんなことをされているんですか。

吉田 当初、名称を「家族会」としていましたが、本人を中心に置くこと、

そして、活動の中でサポーターさんの役割の大きさに気付く、「認知症の人と家族サポーターの会」に名称変更しました。

具体的には、五つの部会でもって活動しております。①元気会は医療、介護、福祉サービスの勉強会。②サロン「楽遊」は、家族が元気会に参加している際に本人に寄り添う場です。③たんぼの会は、若年性認知症の人と家族の会です。高齢者の認知症と比べ課題や質が異なるため、当事者のみで本音で語り合えるように別日程で会を開いています。④つどい場「楽」は軽度認知症の方や初期認知症の人に限ってあります。⑤コミュニケーションカフェ「ノット」は、認知症の人を含め、いろいろな人が集える場です。これらの活動から見えてきたことは、若年性認知症の人に優しまちづくりは、すべての人が安心、安全に住めるまちづくりと言えます。国が策定した新オレンジプランを早期に実現してほしいと願っています。

清水 そう思います。私は、若年性認知症支援対策の充実を図るといふ県の方針のもと平成二五年に開設された「ひょうご若年性認知症生活支援センター」で、当初から相談員をし、高砂市で「子いるかの会」のサポーターをしています。高齢者版の対策では、若年のニーズにはあわないということを実感しています。



子いるかの会

※1.六十五歳未満で発症する認知症 ※2.認知症と診断されると看護師などの専門職が支援を行なう制度

# でも る地域づくり

# 認知症になっ 安心して暮せ

## 対談



加古川認知症の人と家族  
サポーターの会 代表  
吉田正巳

の家族の会の中で特に若年の家族さんの場合、先程言われたようにいろんな生活課題があるということで新しく生まれたい会なんですけれどね。その3つの会が力を合わせてもつとつと地域の中にいろいろ悩んでいて家族会に繋がらなかつた方たちに何かメッセージを送りたいと、昨年、吉田さんの協力も得て、映画会をしまして、盛況だったので、今年もしました。

### 第3の居場所づくりへ

**吉田** 私たちが進めていますコミュニティカフェは、名称を英語で「ノット」と言います。結び目、交流と訳されます。地域のひとと人のつながりを目指しています。認知症の人に限らず、子供から高齢者までいろいろな人が集える場です。青空の下、毎回約八十人の方が参加されています。このカフェは、家庭でもなく職場やデイサービスなどの福祉施設でもない第3の居場所として考えられないでしょうか。地域のひとと人のつながりが、家族の絆を更に強くしたり、躊躇せず認知症であることを言える空気が生まれるものと考えています。

ムをしました。この取組みを通して思ったのは、居場所とかいろんなことを考える時に住民の力を大事にするっていうのが大事だと。私も保健師の視点で、住民の一人としてやってみるわけなんですけれども、今だったら行政とか専門職がレールを敷いて「住民の方、協力してくださいね、参加してくださいね」というスタイルだったんですけれども、これからは行政も専門職も住民の人達もみんなが力を合わせて一緒に議論をして作り上げていく、そういうスタンスはすごく大事じゃないかなって思います。そういう仕組みっていうか実際のやり方がまだまだ未成熟というところが課題ではないでしょうか。

**吉田** それは大きな課題だと思えます。「してあげる↓してもらっている」という上下関係ではなく、「お互い共に支えあう」という横の仕組みづくりが大事だと思います。認知症新時代に向けて、私たちの会も活動を更に活発化させたいと決意しています。どうぞ、ご指導、ご鞭撻のほどお願いします。

**清水** こちらこそ今後ともよろしくお願いします。

**吉田** 施策の策定、実施にあたって大事なことは、本人を「カヤ」の外に置かないことではないでしょうか。私の場合、最初、ケアプランを立てる際に、ケアマネージャーと私と娘の三人で決めてしまいました。妻がデイサービスの初日に帰ってきた時、私に向かって、「お父さん、私今日行って何するんよ。どこに行くんよ。私に教えておいてよ。」と言いました。小さい声であつたが私には心に痛く刺さつたことを忘れられませんが。私の心の隅に「認知症の人に相談しても無駄や」という間違つた考えがあつて、知らず知らずのうちに妻を柵に上げケアプランを立ててしまつていたと思ひます。人は誰でも「のけ者」にされたら怒りますよな。

んできていると思うんですけれども、それでも認知症になったらもうお終いだとか、何も分からなくなるといふ、そういう認知症観がまだまだ蔓延しているとか、社会の壁はまだまだ厚いんじゃないかと思つてますけど、そこらへんのところはどつですか。

**吉田** おっしゃる通り私も感じています。徘徊や暴言、暴力などは、共に生活する上では困つたことですが、これらの症状は生活全般の中では、ごく一部分にすぎないのに、これらのことが広く流布されると、認知症の人は何もできない上に、何をするか分からない危険な人という様な、レッテルを貼られかねないと思ひしています。

妻は、八月の広島の平和式典の様子がテレビで放映された時、広島なのに「長崎の鐘」を歌うんです。それで涙を流すんですね。確かにトンチンカンで

すが、平和に対する強い思いが心にあつて、「長崎の鐘」を歌つており、まさに「心は生きています」と思ひます。健康な人でも時には大きな声で怒つたり、町の様相が変わつていった時、道に迷いウロウロしたりします。認知症の人となら変わりはせん。認知機能の低下に伴つて生活する上で支障が出てくるだけで、人としての価値は変わらないと思ひます。けつして特別な人ではなく普通の人だと思ひます。

**清水** 吉田さんは地域づくりの挑戦をされています。私は実際に高砂市で子いるかの会のサポーターとして参加しています。高砂市には3つ、家族介護者の会があるんですよ。1つは老人保健事業から始まつた家族の会、それと認知症の高齢者を介護されているご家族が主に始まつた介護者の会があつて、子いるかの会っていうのは認知症

**清水** 高砂では、今年さらに色んな関係団体にも協力を得、実行委員会を組織して「認知症になつても安心して暮せるまちづくり」をテーマにフォーラ



コミュニティカフェ・むすび(交流)の家 KNOT(ノット)



**清水美代子**(しみず・みよこ)  
兵庫県の保健師として、36年間、保健所及び県庁・関連団体に勤務。現在、ひょうご若年性認知症生活支援相談センター相談員。また、若年性認知症の本人と家族のつどい「子いるかの会」のサポーターとして「認知症に優しいまちづくり」に取り組んでいる。



**吉田正巳**(よしだ・まさみ)  
「加古川認知症の人と家族、サポーターの会」代表。元加古川市助役。2010年「加古川認知症家族の会」として設立。2013年、若年性認知症の家族らが集う「たんぼぼ」、2015年、認知症コミュニティカフェ「むすび(交流)の家KNOT(ノット)」も発足。



自治会の様子  
入居者全員が集まり自治会長さんの司会進行で、  
生活問題、行事企画などを主に話し合っています。



社会福祉法人きらくえん

〒661-0982 兵庫県尼崎市食満2-22-1  
tel:06-6493-8840  
http://www.kirakuen.or.jp/

## これまで通りの生活の継続と その人らしさを重視した暮らしを

認知症高齢者のグループホーム「いなの家」は、尼崎市北部に位置しており、「けま喜楽苑」に併設されています。かみ”じも”と呼ばれる2つのユニットには平均年齢87.7歳、平均要介護度3.17の方々がお住まいです。

施設でなく”住まい”と位置付けており、建物は故外山義教授（京都市大学大学院）の設計指導・監修の下、「生命力をしばませない施設づくり」をコンセプトに建てられており、日本人になじみの深い数寄屋風の建築様式を取り入れ、和を基調としながらも、高齢者の身体状況を考え、いす・ベッドという洋の暮らしも取り入れています。

## 地域と関わりある 暮らし

入居者は、日常的な散歩や喫茶店での語らい、地域のスーパーでの買い物、お気に入りの美容院での整髪、レストランでの外食などアクティブに暮らしています。遠出の外出では、宝塚歌劇場、甲子園球場、阪急百貨店にも行きました。開設時に比べると車いすの入居者も増えましたが、家族やボランティアの協力も得ながら、毎日地域に向かっています。

## 社会性を保つ 自治会活動

グループホームには「入居者自治会」があります。自治会では毎月1回会合が行われ、「自分たちの暮らしは自分たちで決める」を合言葉に、消灯時間や生活上の困りごと、忘年会や地震災害の義捐金寄付、地域交流についてなど、身近な事柄から社会的な話題まで、実に様々な内容が討議されています。認知症があっても「自分の思いを伝え」「他人の思いを理解し」「感じ・考える」力は存分に残っています。職員はその「力」を発揮できる場として、社会性を保ちながら人と

のかかわりを持ち続ける場として、自治会活動をサポートしています。

## 一人ひとりの 役割づくりを意識

開設当初からもしっかりと大切に取り組んでいることは、職員がすぐに手を出さずに、元気なころの入居者の「生活」と「役割」を取り戻してもらおうということです。一人ひとりの生活習慣を尊重した生活リズムができるよう細やかな対応を行い、与えられた生活ではなく、自分自身の生活と実感してもらえような「役割づくり」を行いました。認知症の方の「自分の事は自分でしたい」「誰かの役に立ちたい」という願いは切実です。職員は手を出しすぎる援助をやめ、見守りや声かけを工夫して必要な部分だけ手助けすることを常に意識しています。

## 最期まで その人らしさを 支える

きらくえんでは、高齢者の死や看取りは「日常生活の延長線上にある」と捉え、ターミナルケアに積極的に取り組んでいます。作今は「終の棲家」として、最期までグループホームで過ごすことを希望される方が増えています。昨年死亡退去された方全員が「いなの家」での看取りを選択し、家族や職員に見守られながら穏やかに最期のときを迎えられました。ターミナルケアにおいては、入居者一人ひとりの生き様を通

して命の尊さを学び、高齢者にとって限りある一日がどれほど大切かという事を教えられています。

私たち援助者の重要な役割は、認知症の方であっても最期の瞬間までその人らしい生き方を支援することです。これからも高齢者の役割と可能性に目を向け、「その人らしさ」の追求とケアの発展に取り組んでいきたいと思っています。



中庭の様子 四季の移ろいを楽しむことができます。

社会福祉法人きらくえんは、1982年に設立され現在兵庫県下に5つの高齢者福祉施設を運営している法人です。特別養護老人ホームを中心に、様々なタイプの高齢者の住まいや在宅福祉サービス等120事業を運営しています。法人理念は「ノーマライゼーション」地域の中で一人の生活者としての暮らしを築く」で、法人設立以後徹底して人権尊重の具現化に取り組んでいます。



## 神戸市認知症 初期集中支援チーム



認知症は誰もがかかりうる病気です。神戸市においても、国が定めた計画である「新オレンジプラン」に基づき、早期に発見し、適切な治療や介護を受けることで、病気の進行を遅らせ、安定した状態を長く続けることを目指しています。

### 認知症初期集中 支援チーム

認知症を心配しているけれど、まだ診断や治療を受けていない方や、認知症によって大声や介護の拒否等の症状が発生して、家族による介護が難しくなっている方には、「認知症初期集中支援事業」による支援をご紹介します。

支援を行うのは、認知症の専門医と社会福祉士や保健師・看護師等の専門職で構成するチームです。対象者の家庭を専門職が訪問し、生活状況や室内の状況をお聞きします。その後、チームで検討し、本人と家族が希望する在宅での生活を継続できるように支援を行います。

### 短期集中の専門的支援

具体的な支援としては、診断が必要な方には、主治医と連携し専門病院を紹介します。アルツハイマー病など認知症の原因となる病気の確定と治療方法を決定します。また、認知症による大声や介護の拒否等の症状が発生して家族の介護が難しくなっている方には、症状に対処するため

早期発見で、  
適切な治療や介護を受けて  
病気の進行を遅らせ、  
長く安定状態を続けるために

### 長田区で初期集中 支援事業モデル実施

神戸市では、平成25年度に長田区でモデル事業として開始しました。実際の事例をご紹介しますと、家族は認

の治療や介護サービスにつなげていきます。また、介護の拒否等の症状は、本人を叱ったり責めたりすることで、さらに不安が高まり混乱するようになります。家族も本人も疲れてしまうため、家族に今後の見通しや声のかけ方を助言しています。

知症を心配しているも、本人は「困っていることはない」「人の世話にはならない」と受診を拒否していた方が、支援により治療を開始できたり、ひとり暮らしで周りに気づかれないうま認知症が進行し、一人での生活が難しくなっていた方が、支援により服薬できるようになり、近隣の協力者も得て、生活が継続できるようになりました。

### あんしん すこやかセンター

認知症を心配している高齢者等の相談窓口は、中学校区に76か所設けている「あんしんすこやかセンター」(地



認知症に関してご心配のある方は、まず相談窓口にご連絡ください。  
(P7「認知症相談窓口紹介」をご参照ください)

#### 神戸市の状況

高齢者人口:約41万人  
認知症の方:約4万人  
(要介護認定者のうち)  
高齢化率:26.6%

域包括支援センター」の認知症地域支援推進員です。対応方法を助言したり、必要な事業をご紹介します。

# 自分でできる「認知症チェックシート」

最近1か月以内のことを思い出してご回答ください。  
(ご家族の方や身近な方がチェックすることもできます。)

(該当項目に○) チェックしたのは(ご本人・ご家族)

No.	質問内容	1点	2点	3点	4点
1	財布や鍵など、物を置いた場所がわからなくなることがありますか。	まったく ない	ときどき ある	頻繁に ある	いつも そうだ
2	5分前に聞いた話を思い出せないことがありますか。	まったく ない	ときどき ある	頻繁に ある	いつも そうだ
3	自分の生年月日がわからなくなることがありますか。	まったく ない	ときどき ある	頻繁に ある	いつも そうだ
4	今日が何月何日かわからなくなることがありますか。	まったく ない	ときどき ある	頻繁に ある	いつも そうだ
5	自分のいる場所がどこか分からなくなることがありますか。	まったく ない	ときどき ある	頻繁に ある	いつも そうだ
6	道に迷って家に帰って来られなくなることがありますか。	まったく ない	ときどき ある	頻繁に ある	いつも そうだ
7	電気やガスや水道が止まってしまったときに、自分で適切に対処できますか。 ※自分で電気会社などに連絡をしたり、滞納している料金を払いに行ったりできますか。	問題なく できる	だいたい できる	あまり できない	まったく できない
8	一日の計画を自分で立てることができますか。	問題なく できる	だいたい できる	あまり できない	まったく できない
9	季節や状況に合った服を自分で選ぶことができますか。	問題なく できる	だいたい できる	あまり できない	まったく できない
10	一人で買い物はできますか。 ※一人で買い物に行かなければならない場合、必要なものを必要な量だけかうことができますか。	問題なく できる	だいたい できる	あまり できない	まったく できない
11	バスや電車、自家用車などを使って一人で外出できますか。	問題なく できる	だいたい できる	あまり できない	まったく できない
12	貯金の出し入れ、家賃や公共料金の支払は一人でできますか。	問題なく できる	だいたい できる	あまり できない	まったく できない
13	電話をかけることができますか。	問題なく できる	だいたい できる	あまり できない	まったく できない
14	自分で食事の準備はできますか。 ※自分で食事の準備をしないといけない場合は、必要な食材を自分で調理または惣菜を購入して準備することができますか。	問題なく できる	だいたい できる	あまり できない	まったく できない
15	自分で、薬を決まった時間に決まった分量のむことができますか。	問題なく できる	だいたい できる	あまり できない	まったく できない
16	入浴は一人でできますか。	問題なく できる	見守りや 声がけを 要する	一部介助 する	全介助を 要する
17	着替えは一人でできますか。	問題なく できる	見守りや 声がけを 要する	一部介助 する	全介助を 要する
18	トイレは一人でできますか。	問題なく できる	見守りや 声がけを 要する	一部介助 する	全介助を 要する
19	身だしなみを整えることは一人でできますか。	問題なく できる	見守りや 声がけを 要する	一部介助 する	全介助を 要する
20	食事は一人でできますか。 ※食事は、介助がなくても一人で食べることができますか。	問題なく できる	見守りや 声がけを 要する	一部介助 する	全介助を 要する
21	家の中での移動は一人でできますか。	問題なく できる	見守りや 声がけを 要する	一部介助 する	全介助を 要する
小 計		1点×( ) =( )	2点×( ) =( )	3点×( ) =( )	4点×( ) =( )
DASC®-21®地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所		No.1~21(21項目)の 合計点		点/84点	

No.1~21の項目の合計点が、**[31点以上]**の場合は、認知機能や社会生活に支障が出ている可能性があります。

 **かかりつけ医などの身近な医療機関に受診しましょう。**

※ご自身・ご家族でチェックされたものはあくまでも参考値としてご利用ください。 [注:このページは、兵庫県健康福祉部が作成した資料の一部を引用しています。]



# 認知症の人への接し方

## 【3原則】

- ① 驚かさない
- ② 急がせない
- ③ 自尊心を傷つけない

認知症という病気にかかると、判断力が低下します。  
 急がされたり、同時に複数の質問に答えることが苦手になります。  
 相手の反応を見ながら会話をしましょう。  
 相手の言葉をゆっくり聴き、何をしたいのかを  
 相手の言葉を使って推測・確認しましょう。

**ポイント 1**

ひとりの人として接する

**ポイント 2**

自尊心を傷つけない

**ポイント 3**

余裕を持ってさりげなく自然な笑顔で対応する

**ポイント 4**

相手の視野に入ったところで声をかける  
※後ろから声をかけない(唐突な声かけは禁物)

**ポイント 5**

相手の言葉に耳を傾けてゆっくり対応する

**ポイント 6**

不安や不快感を感じていないか、注意をはらう

**ポイント 7**

ゆっくりとひとつずつ話す

**は** はっきり **や** やさしく **ゆ** ゆっくり **み** みじかく

左記以外のコミュニケーションを深めるためのポイント

- なじみのある言葉をつかう
- 本人の思いをよく聴く
- 本人が好きなおことやなじみのあることを話題にする
- 間違ったことをいっても正面から否定しない

「認知症かな?」と思ったら ⇨ **かかりつけ医など身近な医療機関にご相談ください。**

こんなところでも相談できます。

### ■ 兵庫県の相談窓口

相談名称	相談内容	電話番号	相談日	相談時間
認知症・高齢者相談	介護経験者による 介護の悩みや心配事の相談	家族の会	☎078-360-8477	月・金 10時～12時
	看護師による 介護方法等に関する相談	看護師		水・木 13時～16時
ひょうご若年性認知症生活支援相談センター	若年性認知症の本人と家族の相談* 市町及び医療・福祉・就労等の関係機関と連携し、相談を受けます。	☎078-242-0601	月～金	10時～12時 13時～16時

※兵庫県内各市町にも認知症相談センターが設置されています。(平成28年4月現在243ヵ所)

「認知症相談センター」一覧は県ホームページから確認できます。  
<https://web.pref.hyogo.lg.jp/kf05/27nintisyoun.html>



[注:このページは、兵庫県健康福祉部が作成した資料の一部を引用しています。]



## 読者の声

『ささえ』第3号は「お酒と健康」を特集してお届けしました。  
いただいた読後感の一部をご紹介します。

お酒と健康「酒は百薬の長」か!?!を読みました。アルコールは、健康に良いというデータはないという事でした。お酒は逃避的に飲むのではなく、適量を楽しみ、私もお酒と上手に付き合いたいと思いました。

(姫路市 男性)

地域医療が求められるこれからは、大人、子供ともに家庭のような環境が理想ですね。看護師の方々のご苦労に頭が下がります。

(神戸市 女性)

認知症初期集中支援チームの専門職間の“調整”は、看護師としてのアセスメント力そのものが試されるのですね。看護師の力の大きさに誇りを持ちたいと思います。

(西宮市 女性)

vol.3初めて読ませていただきました。「神戸ともそだちの丘」のような施設が増えていくといいですね。地域看護についてほとんど知りません。この“ささえます”をきっかけに色々勉強したいと思います。

(洲本市 女性)

第3回目は約700句の応募をいただきました。選考委員会において優秀作品を選考し、5月13日(土)の看護の日記念行事で表彰させていただきます。今回は、応募作品の一部を紹介いたします。

### ナース川柳ひょうご

### のご紹介

手を握り痛いよねって優しく

いい笑顔褒められ決意ナース道

生かしたい逝かせてあげたい  
看取りの日

競い合う還暦ナース新人と

よく寝れた?  
言ってる私は寝不足だ

## 読後感をお待ちしてます!

この冊子の読後感や、本会へのご意見をお寄せください。  
お寄せいただいた一部のお声は次号に匿名で掲載させていただきます。

読後感などをお寄せいただいた方の中から抽選で10名様に

## 読者プレゼント進呈!

- 伊藤園(株)様から、缶入り飲料(190ml) 30本セットを5名様にプレゼント。
- コココーラ(株)様から、缶入り飲料(350ml) 24本セットを5名様にプレゼント。



### 応募方法

#### ■提出方法

はがきに住所・氏名・性別をお書きください。

#### ■あて先

〒650-0011 神戸市中央区下山手通5-6-24  
公益社団法人兵庫県看護協会

#### ■締め切り

平成29年6月30日

#### ■当選発表

商品の発送をもってかえさせていただきます。

※提出される前にお読みください。  
提出いただいた方の個人情報は、本会の個人情報保護規則に基づき厳重に管理し、商品の贈呈者の決定、発送及び次号への掲載のみに使用し、使用後は速やかに確実な方法で破棄します。

### 編集後記

「ささえ」第4号をお届けします。「認知症」について不安をもたれている方、少しは不安が軽減されましたでしょうか。ナース川柳“ひょうご”にたくさんのご応募ありがとうございました。

[ささえ]vol.4

発行・公益社団法人兵庫県看護協会  
〒650-0011  
神戸市中央区下山手通5-6-24  
TEL.078-341-0190  
<https://www.hna.or.jp/>

